

公立大学法人奈良県立医科大学 医学部看護学科紀要

巻頭言	五十嵐稔子…………… 1
総説	
奈良県における在宅看護の変遷と現状	栗田 麻美…………… 4
奈良県における在宅看護の課題と展望	奥田真紀子…………… 14
特別寄稿	
判例評釈	後藤 佳旦…………… 24
人為的災害を被った人々—オーストラリア先住民の事例—	坂口 清…………… 30
文献研究	
小児がんの子どもの闘病仲間とのピア・サポートに関する文献検討	小代 仁美…………… 37
院内助産における分娩時医療介入についての文献レビュー	山名香奈美…………… 45
血友病患者の看護に関する文献検討	木村 知智…………… 55
翻訳・評論	
医療職者のヒエラルキーと文化—異文化における患者ケアを読む (2) —	勝井 伸子…………… 63
看護チームのヒエラルキーと文化—異文化における患者ケアを読む (3) —	青山美智代…………… 72
実践報告	
基礎看護学実習において学生が経験した看護技術	本田 由美…………… 79
紀要編集部会規定……………	89
紀要編集発行規定……………	90
編集後記	

BULLETIN OF FACULTY OF NURSING, SCHOOL OF MEDICINE, NARA MEDICAL UNIVERSITY

Preface	Toshiko Igarashi.....	1
Review article		
Historical changes and present situation of home care nursing in Nara Prefecture	Mami Kurita.....	4
Problems and perspectives of home care nursing in Nara Prefecture	Makiko Okuda.....	14
Special contribution		
Referring to a Judicial Precedent	Yoshikatsu Goto.....	24
The Man-made Disaster :The Case of Aboriginal Peoples in Australia	Kiyoshi Sakaguchi.....	30
Literature review		
Peer Support Among Childhood Cancer Patients :A Literature Review	Hitomi Ojira.....	37
Literature review of medical intervention during delivery at in-hospital midwifery	Kanami Yamana.....	45
A Literature Review on Nursing the Children with Hemophilia	Chisato Kimura.....	55
Translation and criticism		
Hierarchy, Culture and Health care: Reading <i>Caring for Patients from Different Cultures</i> (2)	Nobuko Katsui.....	63
Nursing Team Approach: Reading <i>Caring for Patients from Different Cultures</i> (3)	Michiyo Aoyama.....	72
Activity Reports		
Nursing Skills That Nursing Students Experienced on Basic Nursing Practicum	Yumi Honda.....	79
Guide to Contributors.....		89
Postscript		

奈良県立医科大学医学部看護学科紀要編集部会規定

(設置)

第1条 奈良県立医科大学医学部看護学科に紀要編集部会を置く。

(目的)

第2条 紀要編集部会は、看護学科の紀要に関する事項を協議するものとする。

(組織)

第3条 紀要編集部会は、次の部会員をもって組織する。

(1) 看護学教育協議会が選出した専任教員 若干名

(任命)

第4条 紀要編集部会に部会長を置き、部会長は、他の規定に特別の定めがある場合を除いて、学科長が任命する。

2 学科長は、部会員に欠員が生じた場合は、前項の規定にもとづき、すみやかに部会員を補充しなければならない。

(会議)

第5条 部会長は、部会を招集し、その議長となる。

2 部会長は、副部会長を任命し、部会長に事故あるときは、副部会長がその職務を行う。

3 部会は、部会員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。

4 部会長は、必要があると認めるときは、部会員以外のものを部会に出席させ、その意見を求めることができる。

(任期)

第6条 部会員の任期は2年とする。

2 前条第2項により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(報告)

第7条 紀要編集部会は、審議の経過及び結果について、看護学教育協議会に報告しなければならない。

(書記)

第8条 紀要編集部会に書記を置く。

2 書記は、部会長の命を受け、会議の記録を行う。

第9条 会議の記録は紀要編集部会長が保管する。

(その他)

第10条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、紀要編集部会で協議して定める。

2 紀要編集発行規定は紀要編集部会の議を経て別に設ける。

第11条 本規程に変更がある場合は、紀要編集部会の議を経て変更することができる。

付則

この規定は、平成16年4月1日から施行する。

この規定は、平成27年10月1日から施行する。

奈良県立医科大学医学部看護学科紀要編集発行規定(改訂)

(目的)

第1条

奈良県立医科大学医学部看護学科(以下「看護学科」という)は、その教育と研究の諸活動を発展させ、高等教育機関に課せられた社会的責務を果たし、学術の進歩に貢献することを目的として紀要を発行する。

(名称)

第2条

看護学科が発刊する紀要の名称は、「奈良県立医科大学医学部看護学科紀要(以下「紀要」という)とする。なお、英語での名称は **Bulletin of Faculty of Nursing, School of Medicine, Nara Medical University** とする。

(編集機関)

第3条

- 1) 紀要の編集は、紀要編集部会がこれを行う。
- 2) 紀要編集部会については、医学部看護学科紀要編集部会規定の定めるところによる。
- 3) 掲載された論文等の著作権は奈良県立医科大学医学部看護学科紀要編集部会に帰属し、医学中央雑誌刊行会及び科学技術振興機構が主催する医学関連文献データベース収載誌にて公開する。

(発行回数及び発行時期)

第4条

- 1) 紀要は、1年度に1回、3月に発行する。
- 2) 4年生課程必修科目である看護研究の抄録集を紀要の増刊号として発行する。この紀要増刊号(看護研究抄録集)の内容については看護研究委員会に委ねる。

(原稿の種類)

第5条

- 1) 紀要に掲載する論文等の種類は、次のとおりとする。
 - (1) 総説
 - (2) 原著
 - (3) 研究報告
 - (4) 実践報告・資料
 - (5) 講演その他の学会活動についての研究業績
 - (6) その他紀要編集部会が適当と認めたもの
- 2) 他の雑誌に発表された論文は掲載しない。

(執筆者)

第6条

- 1) 紀要に執筆することができるものの範囲は、次のとおりとする。
 - (1) 看護学科に勤務する教員、本学看護学科学生、及び、大学院看護学研究科学生
 - (2) 看護学科の教員を含む共同研究の参画者
 - (3) その他紀要編集部会が執筆を依頼した者

(投稿の提出)

第7条

- 1) 紀要に投稿しようとする者は、毎年12月末までに紀要編集部会長に提出する。
- 2) 原稿は、正1部、執筆者および所属は記入しない原稿2部、計3部提出とする。
- 3) 論文の採択は査読者の査読をへて、編集会議で決定する。
- 4) 執筆にあたっては、倫理的に配慮されている旨を明記すること。

(執筆の要項)

第8条

1) 原稿の執筆は下記に従う。

- (1) 原稿は、Windows 版 Microsoft など汎用性の高いソフトで作成し、文字は MSP 明朝または Century で 11Pt とする。
- (2) 原稿は、所定様式(A4 版 20 字×42 行横書き 2 段組) で、本文、文献、図、表、写真を含めて 8 枚程度とする。
- (3) 原稿の枚数が多い場合には、印刷の実費の一部を執筆者が負担することがある。
- (4) 最終原稿は、写真印刷できるものとし、CD、USB メモリー等一般的な記録メディアで入校、著者校正を行う。
- (5) 専門用語または引用資料以外は、常用漢字、新かなづかい、ひらがなを用い、文体は、口語体とする。
- (6) 外国人名、外国の地名、生物名等をカタカナ書きした場合は、原則として原綴又は学名を活字体で併記するものとする。
- (7) 単位は、m, cm, mm, μ m, nm, pm, A, l, ml, μ l, mg, μ g などとする。また、RI の質量は、記号の左上につける。なお、各符号の後ろに点を付けない。
- (8) 原稿には、表題 (英文の標題)、所属、執筆者名(ローマ字とも)を併記しなければならない。
- (9) 総説及び原著論文には、原著論文用原稿用紙第 1 ページに 40×10 行程度の日本語の要旨を記す。また原著論文にはそれに続いて英文の要旨を 300 語以内で記す (この英文要旨は事前にいわれる Native check を受け保証されたものに限る)。
- (9) 研究分野によっては、英文を欧文に読み替えることができる。
- (10) 図、表および写真は、図 1、表 1、写真 1 等通し番号をつけ、本文とは別に一括し、本文原稿右欄外に、それぞれの挿入希望位置を朱書きする。
- (11) 文献の記載方法は下記に従う。
 - ① 引用文献を示す中波、本文中に (筆頭著者のせい、年号) のようにカッコ書きの割注で示し、論文の最後に文献リストを掲載する。
 - ② 文献リストは筆頭著者名のアルファベット順(和文・欧文を問わない)で記載し、番号はつけない。また同一著者による同年発表の文献が複数ある場合は、出版年の後に a, b・・・をつける。
 - ③ 著者が複数の場合は、本文中の引用箇所には筆頭著者の後に、「ら」または「et al.」を加える。また、文献リストには 3 人まで著者名を明記し、4 人目以降を「他」または「et al.」とする。
 - ④ 文献リストの表記の方法は以下に従う。

・雑誌掲載論文

著者名(発行年次): 論文の表題.雑誌名,号.または巻(号):開始ページ数-最終ページ数.

例: Hammond C. B., Weed J. C. Jr., Currie J. L. (1980): The role of operation in the current therapy of gestational trophoblastic disease. Am J Obst Gynecol, 136: 844-858.

藤岡完治(1996):臨地実習教育の授業として成立.看護教育, 37 (2): 94-101.

・単行本

著者名(発行年): 論文の表題. 編者名. 書名(版数). ページ数.発行地(外国文献の場合のみ).

例: Beauchamp T. L., Childress J. F. (1994): Principles of Biomedical Ethics. 4th ed. Oxford University Press. New York.

松本光子(1986):看護実践課程一看護実践の系統的アプローチ.第一版.日:総研出版.

・電子ジャーナル中の論文

著者名: 誌名. 出版年次,巻(号),開始頁 - 終了ページ.入手先(入手日付).

例: 松原繁樹,江川誠二: 英文作成支援ツールとしての用例文検索システム ESCORT.情報管理.2008,51(4),251-259. <http://joi.jic.jst.go.jp/JST.JSTAGE/JOHOKANRI/51.52>. (accessed 2008-08-25)

・ウェブサイト中の記事

著者名：“ウェブページの題名”．ウェブサイトの名称．更新日付.入手先,(入手日付).

例) 中央教育審議会：“教育新興基本計画について - 「教育王国」の実現に向けて - (答申)” 文部科学省 2008-04-

18.http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/08042205.htm,(access ed2008-08-25)

- ⑤ 人文・社会科学系の論文にあつては、専攻分野で慣例となっている表記の仕方に従うこともできる。

(著者が負担すべき費用)

第9条

別刷りは執筆者の負担とする。

(規約の改正)

第10条 この規則の改正は、紀要編集部会の審議を経て決定する。

付則

この規定は、平成16年4月1日から施行する。

この規定は、平成19年9月1日から施行する。

この規定は、平成24年12月1日から施行する。

この規定は、平成25年10月1日から施行する。

この規定は、平成27年10月1日から施行する。

看護学科紀要編集部会委員名簿

委員長	濱田 薫	副委員長	水主千鶴子	委員	長田艶子	
	委員	升田茂章	委員	乾つぶら	委員	橋本颯子
	委員	山田晃子				

あとがき

今年も看護学科棟玄関先の梅が咲き誇り、春がやってきました。そして今年も皆様のご尽力で看護学科紀要が発刊されました。投稿していただきました筆者の先生方はもちろんいろいろな先生方のお力添えを頂戴して出来上がったものです。また今回も非常勤講師のお二人の先生にお世話になりました。編集部として厚く御礼申し上げます。以前であればおそらく紀要が置いてあっても手に取って中を読まれることは少なかつたと思いますし、特に看護学科教員以外の方が読まれることはまれであったと思いますが、看護学を専門とされない方でも興味を持たれるような幅広い内容になっています。後藤先生には実際の裁判の判決を解説していただき、坂口先生には、医学史の一面ですが、出来の良いテレビのドキュメンタリー番組のように引き込まれ、終わっていろいろなことをシリアスに考えさせられる内容の寄稿文をいただきました。勝井先生、青山先生に頂いた翻訳・評論も示唆に富み、いろいろ考えさせられる内容だと思います。英語が苦手な私にとっては目の前に原書があっても読む可能性はゼロに等しく、内容に触れる機会を頂いたお二人に感謝申し上げます。それに加えて、文献研究が3編あり、いずれもなかなかの力作です。

残念ながら今回は原著論文として投稿されたものはありませんでした。文学や社会学のような領域を垣間見れば理解が容易になると思いますが、文献研究は価値の高いものです。もちろん先行研究の把握や現状の調査として研究プロジェクトの早い時期の成果を示し、今後の方向付けに資するということが多いかも知れません。「研究とは何か?」とか「何のために研究をするのか」ということに関連しますが、重要なことは自分の頭で自ら考えることであり、その結果得られた新知見に対する評価を世に問うというのが論文の意義です。その際の仮説の立て方とその検証の方法に研究全体の独創性や新規性が表現されます。新しい学期が始まり、領域によっては新しい研究プロジェクトを始めるといような話も聞こえてきます。学生の研究指導に加えて、附属病院の看護研究への協力あるいは参画も多く時間を要すると思います。しかし一方で、多くの研究に関われることのメリットは明らかです。教員全員が各々あと少し時間をやりくりして研究に注力できれば紀要も百花繚乱ということになるでしょう。

偉そうなことをいうばかりとお叱りを受けるのでしょうか。

(看護学科紀要編集部会委員長 濱田 薫)

奈良県立医科大学 医学部看護学科紀要

V O L 12

印 刷 平成28年3月31日

発 行 平成28年3月31日

編集・発行者 奈良県立医科大学 医学部看護学科

濱 田 薫

印 刷 所 株 式 会 社 アイ プ リ コ ム

磯城郡田原本町千代360-1

電 話 0744 - 34 - 3030
